| 科目ナンバリング | U-LAS70 10001 SJ50 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | ILASセミナー ：再生可能エネルギー政策の調査と計画<br>ILAS Seminar :Research and Planning for Renewable Energy Policy | | | 担当者所属職名・氏名 | エネルギー科学研究科 准教授　尾形　清一 | | |
| 群 | 少人数群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | ゼミナール（対面授業科目） |
| 開講年度・開講期 | 2025・前期 | 受講定員<br>(1回生定員) | 10 (10) 人 | 配当学年 | 主として１回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 曜時限 | 火5 | 教室 | 総合研究11号館217 (本部構内) | | | 使用言語 | 日本語 |
| キーワード | エネルギー政策 / 地域政策 / 環境計画 / エネルギー工学 / 社会的受容性 | | | | | | |

**[授業の概要・目的]**

　再生可能エネルギーは、地球温暖化問題の解決やカーボンニュートラルの実現、SDGs（Sustainable Development Goals）への貢献が期待されている。このILASセミナーでは再生可能エネルギーの特徴や課題、そして将来展望などについての講義、グループワーク、現地調査等を通じて再生可能エネルギーに関する各自の見識を深めてもらう。

　現代社会の多くの課題は複雑性や不確実性に直面しているが、再生可能エネルギー利活用の課題においても技術・経済的問題、社会制度や倫理的課題等が複雑に絡み合ってる生じている。再生可能エネルギーの望ましい利活用の在り方を考える過程で、多面的な社会課題を理解し、課題解決に取り組む能力を身につける。

**[到達目標]**

・技術・社会・倫理等の複雑に絡み合った問題を考察することで、多面的に考える能力を身につける。
・課題に対して，個人またはグループごとにディスカッションを行い，レポート作成能力や，討議能力を養う

**[授業計画と内容]**

第1回：ガイダンス

第2回～第11回：
　以下に挙げる項目について講義とグループディスカッション・現地調査を実施する。ここで得られた知見を踏まえて第12回以降に受講者がグループで再生可能エネルギー利用方法などを検討しプレゼンテーションを行う。

1:再生可能エネルギーを巡る国際的現状（講義）
2:再生可能エネルギーとSDGs（講義）
3:再生可能エネルギーの先端技術と課題（講義）
4:再生可能エネルギーと経済①（講義）
5:再生可能エネルギーと経済②（グループディスカッション）
6:再生可能エネルギーの社会的受容性①（講義）
7:再生可能エネルギーの社会的受容性②（グループディスカッション）
8:現地調査①-再生可能エネルギー利用
9:現地調査②-再生可能エネルギー利用
10:現地調査③-再生可能エネルギー利用

第12回:再生可能エネルギー利用モデルの検討①

ILASセミナー ：再生可能エネルギー政策の調査と計画(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：再生可能エネルギー政策の調査と計画(2)

第13回:再生可能エネルギー利用モデルの検討②
第14回：発表会
第15回：フィードバック

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（授業への参加状況、ディスカッションへの参加度）40%、受講者による発表会（プレゼンテーション）60%により評価する。

**[教科書]**

プリント配付

**[授業外学修（予習・復習）等]**

再生可能エネルギーのメリットやデメリット等を事前に学習することが望ましい。

**[その他（オフィスアワー等）]**

セミナー中に京都市内及び京都市外で現地調査や見学会を実施する場合もある。このため、学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険への加入すること。京都市内の現地調査では、交通費（京都市内移動程度の費用）は各自の負担とする。京都市外の現地調査が必要となった場合は、土日に実施する。この場合、大学からバスなどを使って移動するため交通費の負担はない。

**[主要授業科目（学部・学科名）]**